

今日のみことば

□ 9月10日(日) 出エジプト 10章

神がパロに八番目はイナゴによる災害、九番目は暗やみの災害を下された。それは今までのうちで一番の恐怖でした。パロは一時、国外退去を命じたが、思い返して命令を取り消した。

□ 9月11日(月) 出エジプト 11章

最後の十番目の決定的な打撃は、神ご自身によって行われた。モーセはこれまで神の忍耐を示してきたが、いまや神の權威によって行動したモーセを拒んだパロに、神の怒りは燃やされた。

□ 9月12日(火) 出エジプト 12章

小羊がほふられ、その血はかもいと二本の門柱に塗られた。長く延ばされていたエジプト人はさばきは下された。イスラエル人は解放されて出エジプトした。

□ 9月13日(水) 出エジプト 13章

モーセは、イスラエルの民をエジプトから導き出した。約束のカナンの地への旅が始まった。神は昼は雲の柱、夜は火の柱をもって、彼らを導かれた。

□ 9月14日(木) 出エジプト 14章

パロは心を変え、イスラエルの民を追った。民はそこで最初の信仰の試みに遭遇した。海と山の間に関閉じ込められた民を神は、紅海に民のために道を開いて、彼らを守られた。

□ 9月15日(金) 出エジプト 15章

イスラエルの民は、出エジプトの最初において、紅海でのすばらしい救いの経験をした。その喜び、感謝をさんびの形で歌ったのがこれである。

□ 9月16日(土) 出エジプト 16章

イスラエルの民はさらに進み、シンの荒野まで来た。食物がなくなってつづやく不平をもらした。神はその不平を聞かれてマナを送られ、彼らのからだの必要を満たされた。

ろ ぼ No. 1832

2017年 9月10日
日本バプテスト 立川キリスト教会
牧師 大川 博之

詩篇 84:11

あなたの庭で過ごす一日は
千日にまさる恵みです

何事が起ころうとも、私たちは安心して日を過ごすことができる秘訣を心得ています。旧約の詩人は「いかに幸いなことでしょう。あなたの家に住むことができるなら、まして、あなたを賛美することができるなら。」と歌いました。私たちの安心と、平安は神のうちにあることを周知しています、知っています。

そこでは、何事が起ころうとも主の愛が満ちあふれているからです。主の神殿で礼拝を持った経験のある詩人は、その時にご臨在なさる「生ける神」との対峙は、何ものにもまさる喜びであり、力となりました。彼は「万軍の主よ」と呼びました。宇宙の王であり、すべての民の王である主が、ご臨

在なさる庭に立たせていただいた喜びを、彼は忘れることができませんでした。そこには、私たちへの教会礼拝への大切なメッセージを聞かせていただくのです。この世の忙しい人生の流れから外れて、静かに黙想し、祈ることができる幸いを知っている者の平安を、「雀さえも、つばめも、住みかを見つけました。ひなを入れる巣、あなたの祭壇は(わたしの宿です)」と歌いました。きつねには穴があり、空の鳥には巣がある。しかし、人はただ神においてのみ憩うことができます。私たちはその幸せを味わわせていただいています。しっかり信仰に生かされることです。この信仰によって私たちは大いなる勇氣

を与えられるのです。

「嘆きの谷を通るときも、そこを泉とするでしょう。雨も降り祝福で覆ってくれるでしょう」と言う。その信仰の旅路がどのような困難に遭遇することがあろうとも、そのつど神は力を与えられ支えてくださる。歩み続けても疲れることなく、常に力に満ちて進むことができます。ほんとうに主に依り頼み、聖徒たちの群れに加えられて、私たちが歩む広い道は、かわいた荒れた谷も、泉の水で満たされて、美しい緑地となる。心が神とともに正しくあるなら、砂漠は宮となり、涙はほほえみに変えられます。

私たちの幸いの確かさは、神の家にある幸いです。「万軍の主よ、あなたのすまいはいかに麗しいことでしょう。わが魂は絶えいるばかりに主の大庭を慕い、わが心とわが身は生ける神にむかって喜び歌います。」と言う。どんな生き方をするよりも、神の家に関わりのある「生ける神」との関わりを願いますそれこそが幸いなのです。「まことに、あなたの大庭にいる一日は千日にまさります。私は悪の天幕に住むよりはむしろ神の宮の門口に立ちたいのです。」と言います。私たちは神とともにいることがいかに幸いであるか、この詩人は歌いました。それはまた私たちの信仰体験でもあります。

神より離れたところに喜びはありませんでした。神より離れた生活はむなしなものばかりでした。それはたとい、一時的には目を楽しませ、欲望を満たしてくれたかも知れませんが、魂を真に楽しむものでも、心を満たすものでもありませんでした。

私たちの信仰の確かさは、神とともにある、その平安に見せていただくのです。

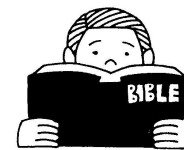
————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————

士師記 7:1-8 心がおごらないために

ギデオンはミデアン人との戦いのために民を招集した。神は人数が多すぎると言われ、選別された一万人が残った。それでも神は多すぎると言われた。

神がイスラエルのために戦われるのです。神が戦われるのであり、勝利も神のものであります。自分の力で勝てないことをはっきりするように、民は圧倒的に少数であるべきとされました。神がとられた方法は実にユニークのものでした。最終的に300人だけがギデオンの手に残されました。

そこから私たちは何を聞きとるのでしょうか。ミデアン人はアマレク人や東方の諸民族とともに上って攻めてきたのです。人に頼らず、神の頼ることを教えられようとしたのです。神が信仰者を扱われる方法は今も変わりません。ただ主にのみ頼らねばならないようにされます。少数でも緊張し神に信頼して進むとき、大きな事をもなし得ることを教えられました。



Read God's Word.